

# つばさ

地域の皆さまに信頼される病院として  
安全で質の高い医療を提供します。

独立行政法人地域医療機能推進機構  
神戸中央病院  
〒651-1145  
神戸市北区惣山町2丁目1-1  
TEL 078-594-2211  
FAX 078-594-2244  
<http://kobe.jcho.go.jp/>



## 皮膚科・形成外科



医員  
吉武 紗哉香

部長  
村西 浩二

神戸中央病院は地域医療支援病院であるため、当科でも近隣の医療機関の先生方から患者さんを紹介していただき、その数も徐々に増えてきております。皮膚科は一般的に視診で診断がつくように思われるかもしれませんが、特に紹介患者さんでは、視診では診断が難しいことが多く、血液検査、生理検査、画像検査、生検などを踏まえて総合的に判断して診断することになります。

診療体制について月・木・金は2診制で火・水は1診制ですので、紹介予約はできるだけ2診制の日に優先して振り分けて外来診療が円滑に進むように心がけております。また当院は、生物学的製剤使用承認施設ですので、生物学的製剤やJAK阻害薬の投与が可能です。傷の治療、腫瘍の切除は金曜日に形成外科非常勤医師が診療を担当し、午前外来診療、午後手術をおこなっています。腫瘍関連の紹介は多く、手術は2か月程度予約待ちしていただいている状態です。

近年、高齢化に伴い末梢動脈疾患（PAD）が増えております。足潰瘍ができると痛みが強く、壊死すると足（趾）の切断が必要になり、治療に非常に時間がかかります。PADの症状として足背や後脛骨動脈の拍動が触れず、チアノーゼ、足の冷感、足背・趾背の脱毛などがみられます。糖尿病のない患者さんにもPADを合併することがあります。しもやけと思われていた皮疹がPADの症状であることもあります。足関節上腕血圧比（ABPI）や皮膚還流圧（SPP）検査で比較的簡単に血流が評価できるため、早めに紹介いただければ検査し、血流障害が疑われれば循環器内科に治療を依頼させていただきます。

いずれの紹介患者さんも状態が落ち着き次第、できる限り紹介元の先生に引き続き診療をお願いしております。微力ではございますが、地域の基幹病院としてご期待にそえるよう努めてまいりますので、どうかよろしくお願ひします。

部長 村西 浩二

### 外来診察担当医表

診療時間		月	火	水	木	金
皮膚科	一診	村西 部長	吉武 医員	村西 部長	村西 部長	稲福(形成) 医師
	二診	吉武 医員		吉武 医員	吉武 医員	川西 医師

近隣医療機関のご紹介

# たてはら耳鼻咽喉科クリニック

〒651-1233 兵庫県神戸市北区日の峰3丁目24-10

TEL 078-581-8711 FAX 078-581-8721

診療科目：耳鼻咽喉科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~12:00	●	●	●	×	●	●	×
16:00~19:00	●	●	●	×	●	×	×



副院長 蓼原 瞬



院長 蓼原 東紅

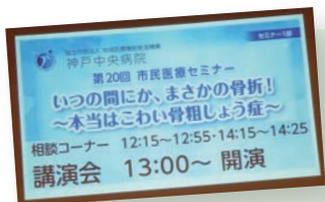
平成3年に日の峰の神戸北町センタービル内で「たてはら耳鼻咽喉科気管食道科クリニック」を開院し、地域の皆様や近隣の医療機関の方々に支えていただきながら診療を行って来て早くも33年が経ちました。

このたび、令和5年4月より日の峰3丁目に場所を移動し、「たてはら耳鼻咽喉科クリニック」として新たに移転開院いたしました。また、この令和6年4月より院長蓼原東紅の息子である蓼原瞬が神戸大学病院を退職し、当院の副院長として就任いたしましたので、現在は2人体制で診療を行っております。



耳鼻科領域の中でも、院長は音声障害を中心とした喉頭疾患を専門とし、副院長は鼻疾患と頭頸部腫瘍を専門として研鑽を積んでまいりました。これからその経験や知識をこの神戸市北区の患者様の診療に生かしていけるよう努力してまいります。

最後に、これからもJCHO神戸中央病院をはじめとした近隣の医療機関の皆様には、患者様のご紹介などで大変お世話になることと思いますが、どうぞ末永く、よろしくお願い申し上げます。



1部

第20回 市民医療セミナー  
いつの間にか、まさかの骨折！  
～本当はこわい骨粗しょう症～

2部

第11回 北区在宅医療  
・介護セミナー  
骨粗しょう症とお口の健康

薬剤師 加藤 亮太 先生



この度はセミナーへのご参加誠にありがとうございました。骨粗しょう症の治療薬は多種多様に存在しますが、その中でビタミンD製剤についてお話しさせていただきました。この場を借りて一点付け加えさせていただきますと、日光浴でビタミンDの産生は促されますが過度な日光浴は体に負担がかかりますので、何事も適度が大事になります。今回の内容が、皆様の日々の健康に役立てていただけたら幸いです。

栄養課 山根 悠 先生



この度はセミナーにご参加いただき、ありがとうございました。骨粗鬆症の食事療法では、バランスの良い食事を適量摂取する事が基本です。そのうえで、カルシウムなど特に骨に良いと言われている栄養素を摂取する事が重要と言われています。しかし、適切な食事の内容は個人によって異なります。自分がどうなの？と気になる方は、外来での栄養相談も行っていますので主治医へご相談ください。

整形外科 堀之内 豊 先生



このたびセミナーに参加していただきありがとうございました。テーマは『骨粗鬆症』。整形外科医なので骨折…の予防。『高齢者が転ばないようにするための体操』についてスライドを作ろうと思いましたが、すぐにリハビリテーションのPTが「自分たちがやります」と言ってくれたので私はちょっと楽させていただきました。体操につながるイントロダクション的なスライドになりました。160～170人くらいの市民の方が参加されたことで皆さんの意識の高さには敬服させられました。携わっていただいたスタッフの皆様にも感謝します。今後またよろしくお願い致します。

理学療法士 佐想 彰規 先生



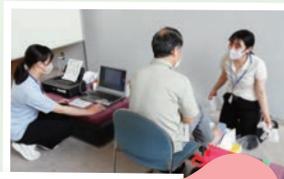
この度、市民医療セミナーへ多数のご参加、誠にありがとうございました。相談コーナーもとても盛況で、参加された方の健康意識の高さを感じました。筋力低下やバランス能力の低下は加齢と共に徐々に進行していきますし、それに伴い骨折のリスクも高まってきます。骨粗鬆症による骨折を予防するために、運動を習慣にしていただければ幸いです。



セミナーの様子



個別相談



検査の様子





## 災害地域への職員派遣報告

令和6年1月に発生しました能登半島地震の被災地へ  
災害支援看護師として協力してまいりました。

副看護師長 井上 寛大



私は、厚生労働省からの要請で災害支援看護師として石川県鳳珠郡の公立穴水総合病院へ派遣され病院支援に従事して参りました。

震災により、帰る家を失い病院に寝泊まりしながら働く姿、預ける場所がなく子供を連れながらの業務に従事する姿など、「被災者であるにもかかわらず、目の前の患者に懸命に向き合う」現地の看護師の姿勢に心を打たれました。現地の看護師の話を聞いていると看護師同士であるからこそ分かち合える話題などもあり、「聞いてもらえただけで、少し楽になりました」と話されたこともあり、医療支援だけでなく被災した医療従事者の心のケアも災害支援看護における重要な役割であることを学ぶことができました。現地の早期復興を心よりお祈り申し上げます。

ここ神戸は、平成7年に発生した「阪神・淡路大震災」を経験した被災地でもあります。「天災は忘れた頃にやってくる」と明治を生きた物理学者の寺田寅彦が言ったとおり、南海トラフ地震の発生予測が騒がれている昨今、今一度家族、友人など身の回りの方々と防災についての話をしておくこと、災害に備えた対策を講じておくことが大切だと思います。

看護師 澤野 多貴



私は能登半島地震が発生した1ヶ月後に穴水総合病院へ災害支援で派遣されました。当時の病院の状況は、下水の復旧ができておらず、治療の継続が必要な方は被災が少ない地域に転送した後で、退院先が被災し帰る場所を失った患者様が大半でした。災害支援は私にとって初めてであり、全てが忘れられない経験でした。その中でも心に残っているのは、折り紙で季節のものを患者様と折り、一緒に飾りつけをした時に「どこをみても辛い日常に、初めて心の癒やしができました。」と話してくださった事です。なにか難しい事をしなければと思っていた私に、“誰かを支えるとは何か”という看護の原点を振り返る機会になりました。



## 災害対応病院の受託について

事務部長 柴山 貢

令和6年4月1日付けで神戸市と「神戸市災害対応病院に関する協定」を締結しました。

神戸市における災害時の医療提供体制は、「兵庫県地域防災計画」に基づき神戸市独自に6カ所の災害対応病院が指定されていましたが、大規模災害に備え更なる体制強化を図るため、今年度から北区の当院も含め新たに5カ所が指定されました。

災害対応病院は、災害発生時の役割として、各区における災害医療の拠点として、二次救急傷病者を中心とした受入れ・治療を行うこと。区内協議会加盟病院とも連携し、各区における傷病者受入れ体制の早期確立に努めること。平時の役割は、災害対応用の医薬品・衛生材料の備蓄。災害対応用の通信手段を確保することとされています。

今後、大規模災害時に北区の災害対応病院としての役割を十分果たせるようソフト、ハード面の更なる充実に取り組んでいきたいと考えています。

新任  
医師



ナカタ アキヒロ  
脳神経外科 中田 章弘

7月より脳神経外科で勤務いたします。地域の皆様に貢献できるよう精進してまいりますので、なにとぞ宜しくお願いいたします。

脳神経外科 部長 桑山 一行

7月より医師5名体制に増員しました。脳血管障害や脳腫瘍、頭部外傷を中心に迅速に対応させていただきます。お気軽に当科へご相談下さい。



## 骨髄異形成症候群 (myelodysplastic syndromes:MDS)について

骨髄異形成症候群 (myelodysplastic syndromes:MDS) は未熟な造血細胞に生じた異常が原因と考えられる骨髄系造血器腫瘍の一つとされています。1982年の French-American-British (FAB) 分類によって疾患概念が明らかとなり、現在は WHO 分類 (2017) を用いて診断、分類がなされています。単一あるいは複数系統の血球減少、血球の形態学的異形成、骨髄における無効造血、急性白血病転化のリスクを特徴としていますが、単一疾患ではなく複数の疾患からなる症候群の集まりと捉えられています。高齢者に多く、加齢が発症の重要なリスクと想定されますが、MDSの半数以上に染色体異常がありさらにほぼ全例に何らかのゲノム変異が同定されることから、未分化な造血細胞に生じたゲノム変異が発症に関与すると考えられています。

WHO分類(2017)での診断は、血球減少、末梢血と骨髄の芽球割合、造血細胞の異形成、染色体異常によってなされます。MDSは種々の血液疾患と境界を接しており、経過観察や他疾患の除外とともに、現在でも診断の重要な部分は形態学的な判断に負うところが大きく、同一病型であっても患者間の予後には大きな違いがみられるため、臨床的判断には病型診断に加えて予後予測が必須となります。確定診断が得られた後は診断時の血液所見、骨髄所見、染色体異常、一部のゲノム変異などによって患者ごとの疾患リスクを予測し、それが治療方針決定の重要な情報となります。予後はMDSの血球減少に関連した事象(感染症、出血など)と白血病化に大きく影響されますが、本疾患は高齢者に多いことにより、併存疾患、年齢など患者背景も予後に大きく影響します。

治療においては基本的な支持療法(定期的な経過観察、社会生活を営む患者活動への支援、血球減少への対応、感染症への対応など)はMDS全例に対して実施されますが、臨床的リスクによって治療方針が異なります。現在でも根治療法は同種造血幹細胞移植のみとなりますが、患者集団の年齢などから同種移植の恩恵にあずかる症例は一部に限られています。一方で、MDSの分子病態解析の進歩に伴って新薬開発が続いており、治療成績のさらなる向上に期待されています。

本邦、殊に当地域におきましても、高齢化が非常に顕著となっていますが、高齢および超高齢発症のMDSの患者さんが非常に多くおられ、前述のとおり多彩な併存疾患を有することが多いことから、治療方針を決定し、それを実行するにあたり多職種介入があって初めて成立することができます。これからもできる限り患者さんの目線に立って診療にあたっていけるよう努めていきます。